

旧制姫路高等学校 物理実験機器コレクションの姫路市への寄贈 と今後の活用について

国際文化科学研究科 教授
塚原 東 吾

【概要】

神戸大学では、前身校のひとつである旧制姫路高等学校で使用された物理実験機器を、科学的に貴重な資料として保存してきました。このコレクションは姫路市史に係る歴史的資料でもあることから、これを姫路市に寄贈することになり、2月27日に姫路科学館に収蔵されました。

【旧制姫路高等学校物理実験機器コレクション：326点の科学史資料】

これらの「旧制姫路高等学校物理実験機器コレクション」は、1924年（大正13年）から1951年（昭和26年）までに旧制姫路高等学校（一部神戸大学姫路分校）で購入され、研究、教育用に使用された力学（28点）、流体力学（21点）、音響学（31点）、熱学（18点）、光学（82点）、電磁気学（116点）など20世紀前半の実験機器です。同種の資料群としては、旧制四高資料群（金沢大学資料室等蔵：約950点）、旧制三高資料群（京都大学総合博物館蔵：約400点）に次ぐ規模です。

【経緯：神戸大学と姫路市】

このコレクションは本学の淵源のひとつである旧制姫路高等学校・姫路市にゆかりの貴重資料です。そのため姫路市に寄付を行い、その社会教育関係機関の下に置かれることで、有効な活用を促すことが期待できます。また、この寄付が姫路の科学史・高等教育史などの諸分野を再考する契機となることも考えられ、このコレクションを通じてさまざまな意味での地域貢献も期待できます。以上のような理由から、姫路市長あての寄付申し出が受け入れられ、姫路科学館で収蔵ということとなりました。

【今後の活用：保存・研究・公開】

姫路科学館では、これを旧制姫路高等学校コレクションとして保存・管理し、旧制姫路高等学校と神戸大学のつながりを広く記憶にとどめるために活用していきます。

現在開催中のサイエンスショーと連動したミニ展示でその一部を公開し、さらに来年度、旧制姫路高等学校コレクションの展示コーナーを新設し公開する予定です。

*このコレクションについては、

<https://www.city.himeji.hyogo.jp/atom/research/tech/>

及び「バーチャル博物館」、

<http://www.kobe-u.ac.jp/virtual-museum/former-himeji-highschool/index.html>

をご参照ください。

【問合せ先】

塚原東吾（国際部科学研究科・教授）

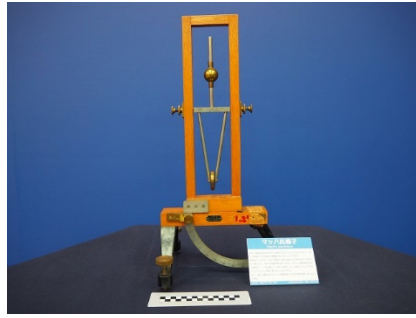
078-803-7435 togotsukahara@harbar.kobe-u.ac.jp

旧制姫路高等学校コレクション

■力学 (28 点)、流体力学 (21 点)



物理天秤



マッハ氏振子



ブラマ氏水圧器

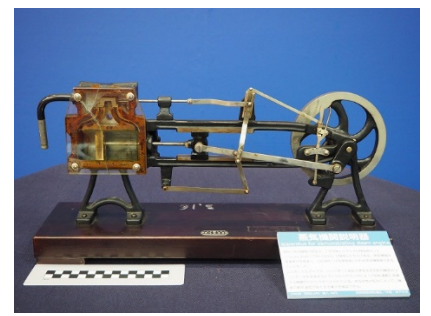
■音響学 (31 点)、熱学 (18 点)



サイレン



内燃機関裁断装置



蒸気機関説明機

■光学 (82 点)、電磁気学 (116 点)



ヒルガー社製写真分光器



島津式起電機



ブラウン・ウェーネルト氏管

■その他 (30 点)



タイガー計算機